



5763

種彦錯國物語

九編  
伊勢之卷前編上

一陽齋画

九

13  
3030  
3





かんな法園物より  
伊世は巻末海の上  
さうはくしとるま  
しるはくしとるま  
柳亭の版  
旧巻を  
せんと  
画



西政四

戲作者の魁は柳亭翁。性年田舎も都も流行ありゆりとて深色の  
 藤袴と綴目とく。紫の雲隱あり。茲は七年柳翁の草造紙永壽堂にて  
 梓行せし。鉾庵と初と本店にて。権三の鏡は條穂も終を其切味の  
 鋭くも滑川の水逝てなると播ふ名も又の松も昔時の松の。是れ若  
 木を植つた人と。采久堂のやめるれも。予も師匠別れて。書作る支も懶惰  
 と。五六年筆を断る。終と朋友たれども。打棄果んは。因ると諫られて又  
 此やて。る。余ある。うけても。各作る。師匠の後。續貂あり。尾の籠が  
 ち。當時翁が著述と。物と再用あり。聊取捨。勉強伊勢巻二套  
 と。毛故。つ。手。成ると。久と。更。つ。つ。作。あり。も。但。付。録。の。遠。江。の。香。  
 是ハ公羽の作あり。其積が園の根分を。彼古市の風雅話の千種の散  
 し。暮秋蕃此の尻より。つ。つ。花。形。の。咲。せ。つ。あ。の。せ。え。の。ま。は。自。あ。の  
 菊の花角力。対の造紙。負るる。の。お。何。も。か。ら。る。へ。故。人。も。ま。ま。喜。び。ほ。え

弘化五年  
戊申孟陬

笠亭仙果謹述







竹花屋手代徳七が毒  
 於玉



木偶舞  
 木





寒風里茶及女於甜



落正  
貞調

正直  
正直

由單















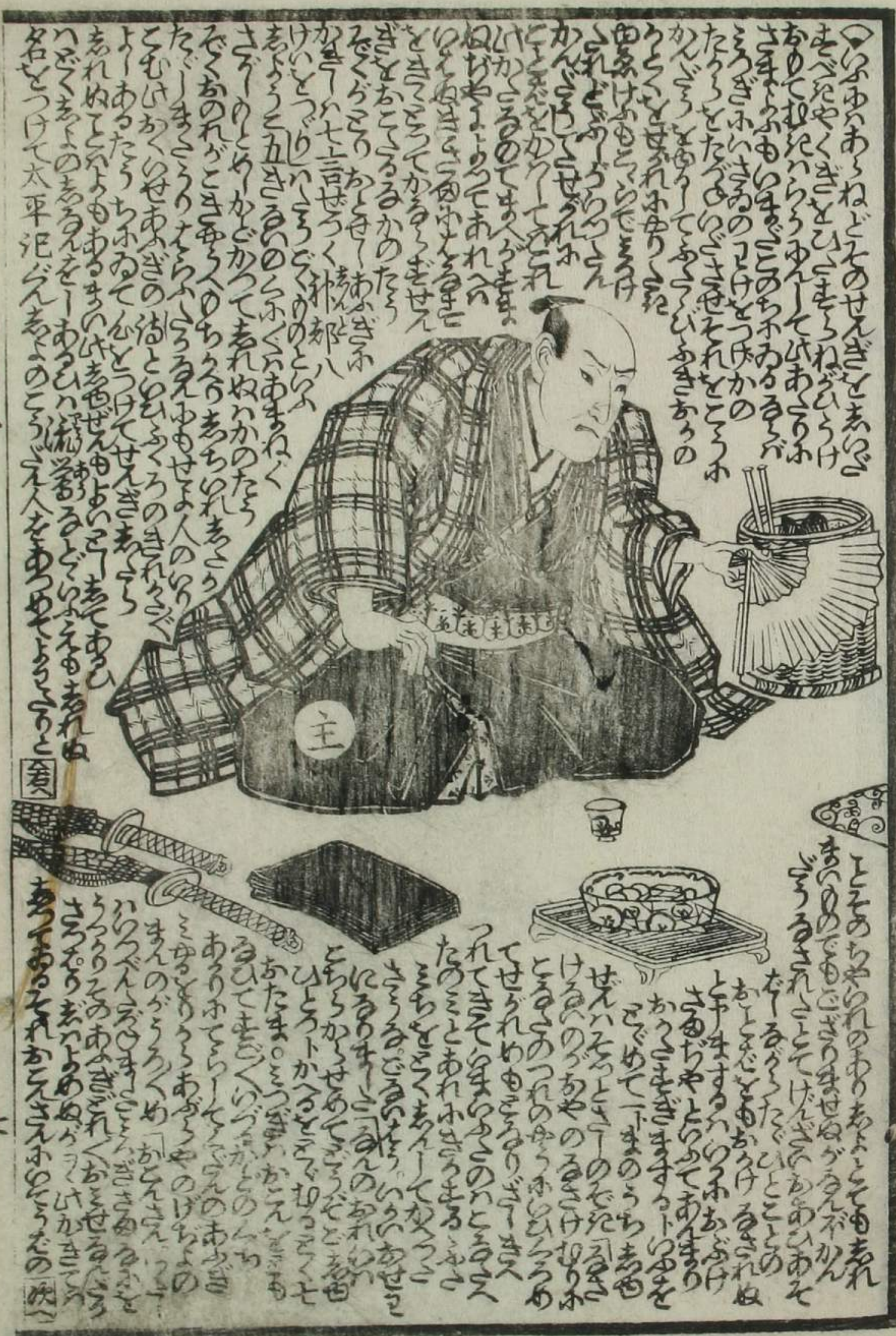


ついでに大津のついでに  
とまきうそこの大津  
たんののちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち

一光年  
ついでに大津のついでに  
とまきうそこの大津  
たんののちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち

徳  
玉  
ついでに大津のついでに  
とまきうそこの大津  
たんののちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち

ついでに大津のついでに  
とまきうそこの大津  
たんののちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち



ついでに大津のついでに  
とまきうそこの大津  
たんののちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち

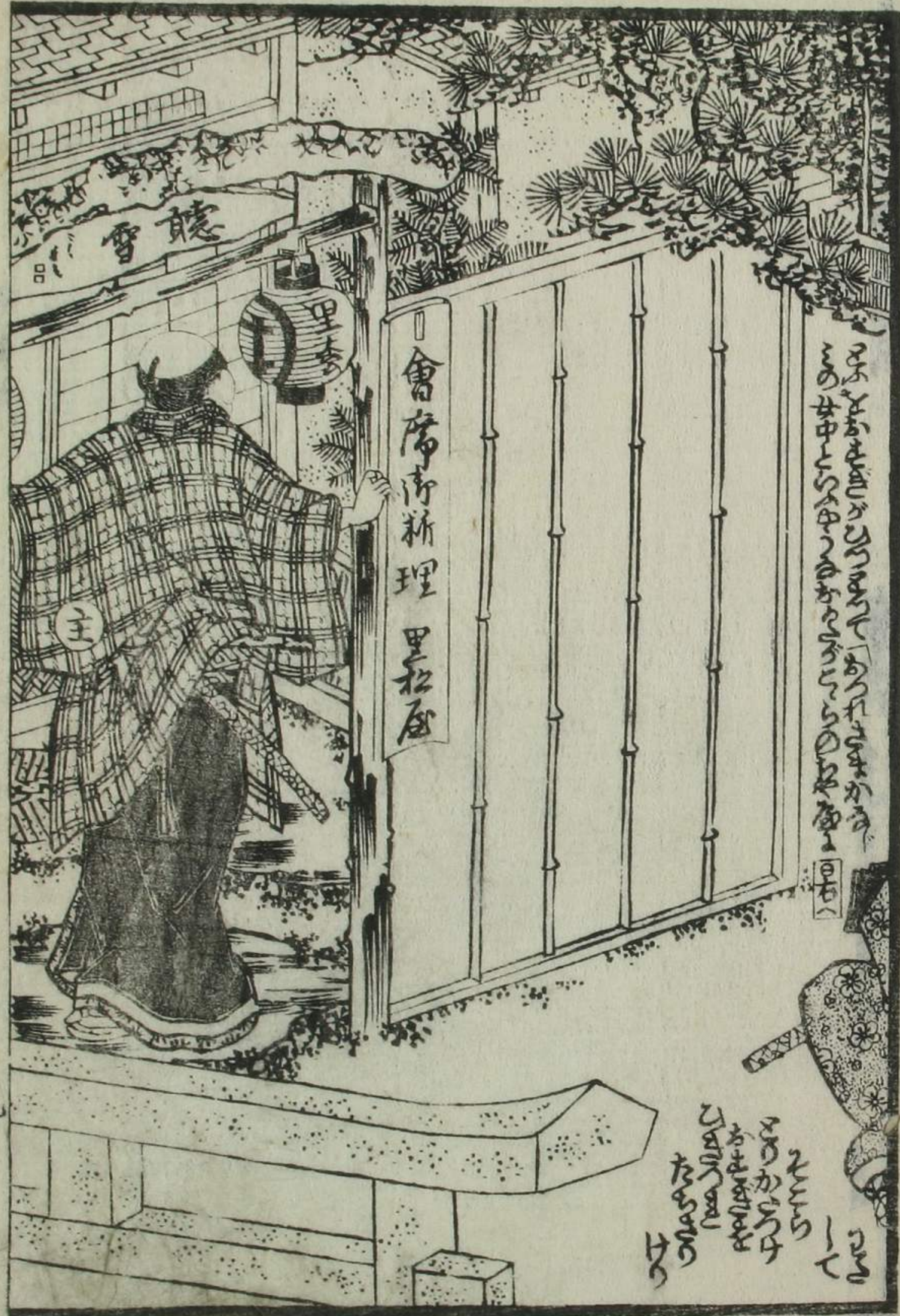
主  
ついでに大津のついでに  
とまきうそこの大津  
たんののちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち

ついでに大津のついでに  
とまきうそこの大津  
たんののちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち  
うそこのちのちのち









此の女は新理の主人の御前  
 として立寄つて居る所なり

此の女は新理の主人の御前  
 として立寄つて居る所なり



甘軍

此の女は新理の主人の御前  
 として立寄つて居る所なり

此の女は新理の主人の御前  
 として立寄つて居る所なり

此の女は新理の主人の御前  
 として立寄つて居る所なり





朝熊道









花園物語

伊勢之卷  
巻下















Vertical columns of Japanese text on the left side of the upper illustration, including the characters '下' and '上'.

Vertical columns of Japanese text on the left side of the lower illustration, including the characters '下' and '上'.



Vertical columns of Japanese text on the right side of the lower illustration, including the characters '下' and '上'.







Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols.







Vertical text on the left side of the illustration, likely a title or introductory text.

Vertical text on the right side of the illustration, likely a dialogue or commentary.



Vertical text on the left side of the illustration, likely a title or introductory text.

Vertical text on the right side of the illustration, likely a dialogue or commentary.

















甲寅

天保十二年

三月

廿九日

正

北

六







種彦猪國物語



伊勢の巻

後巻上

附遠江の巻

嘉永  
四年  
二月

拾







下都十

己酉新春叢市  
 邯鄲諸國  
 物語十編  
 伊勢の巻  
 後帳上  
 故  
 柳亭先生舊案  
 一陽齋豊國画  
 美亭仙果補綴

只  
 用紙  
 四  
 榮久堂梓









摘 束 徒 藍 滿 金 梅

露 沾  
 花 下 露 沾  
 花 下 露 沾  
 花 下 露 沾

天津 篤 四 郎  
 輝 久



檀 處 清 香 依 正 砧

い ろ 加 り 秋 乃  
 菊 花 香  
 心 ぞ 甘 け

二  
 白 雲  
 飛 鳥 一 七  
 夕 陽 入 道  
 夕 陽 入 道

妻 百 夜  
 法 者 耀 楚 樟 齋













廿五

五



Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a collection of letters, written in a language that appears to be a form of Chinese or Japanese. The text is arranged in vertical columns, with some sections separated by small square symbols.



Handwritten text in a cursive script, similar to the text on the opposite page, arranged in vertical columns. The script is dense and fills most of the page area.





Handwritten text in a vertical column at the top of the right page, likely a title or introductory text.

Handwritten text in a vertical column on the left side of the right page, positioned above the illustration.

Handwritten text in a vertical column on the right side of the right page, positioned below the illustration.



Vertical text on the far left edge of the left page, possibly a page number or chapter indicator.

Handwritten text in a vertical column at the bottom of the left page, below the illustration.





Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or dialogue related to the illustration above.



Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or dialogue related to the illustration above.

Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or dialogue related to the illustration above.



Handwritten text in the upper right corner of the right page, including a large decorative tassel.



Handwritten text in the lower right corner of the right page, continuing the narrative.

Handwritten text in the upper left corner of the left page.



Handwritten text in the lower left corner of the left page.



甘藷十

湯島園馬

故柳亭

先生回案

月入笠亭仙果補終



Handwritten text in vertical columns, likely a continuation of the book's content or a commentary on the illustration.

榮久堂藏新版舊神史目録

江戸勸進大角力 相撲起顯

八輯 九輯

永花百人一首又十抄

全

菊書百人一首又十抄

全

御家子供茶文

全

繪入實語教雅繪解

全

御詔漆逢山鹿子 六編揃

好織あられ 蘇白に流り

源氏六十四帖

但め十四枚摺

書肆

江戸町おやちり橋角 山本平吉梓



種彦法園物語

伊勢卷後帳下  
附遠江其卷

仙人  
仙果補綴



一陽齋

豊國画

十九





# 邯鄲諸國物語十編下

故柳亭先生回峯 一陽齋豊國画

神都の地を御傍に御紀の  
 事なきは、うづつに御傍に御紀の  
 ことなきは、富貴御傍に御紀の  
 おもふ山を、うづつに御傍に御紀の  
 御傍に御紀の、うづつに御傍に御紀の  
 けしきを、うづつに御傍に御紀の  
 まさしく、うづつに御傍に御紀の

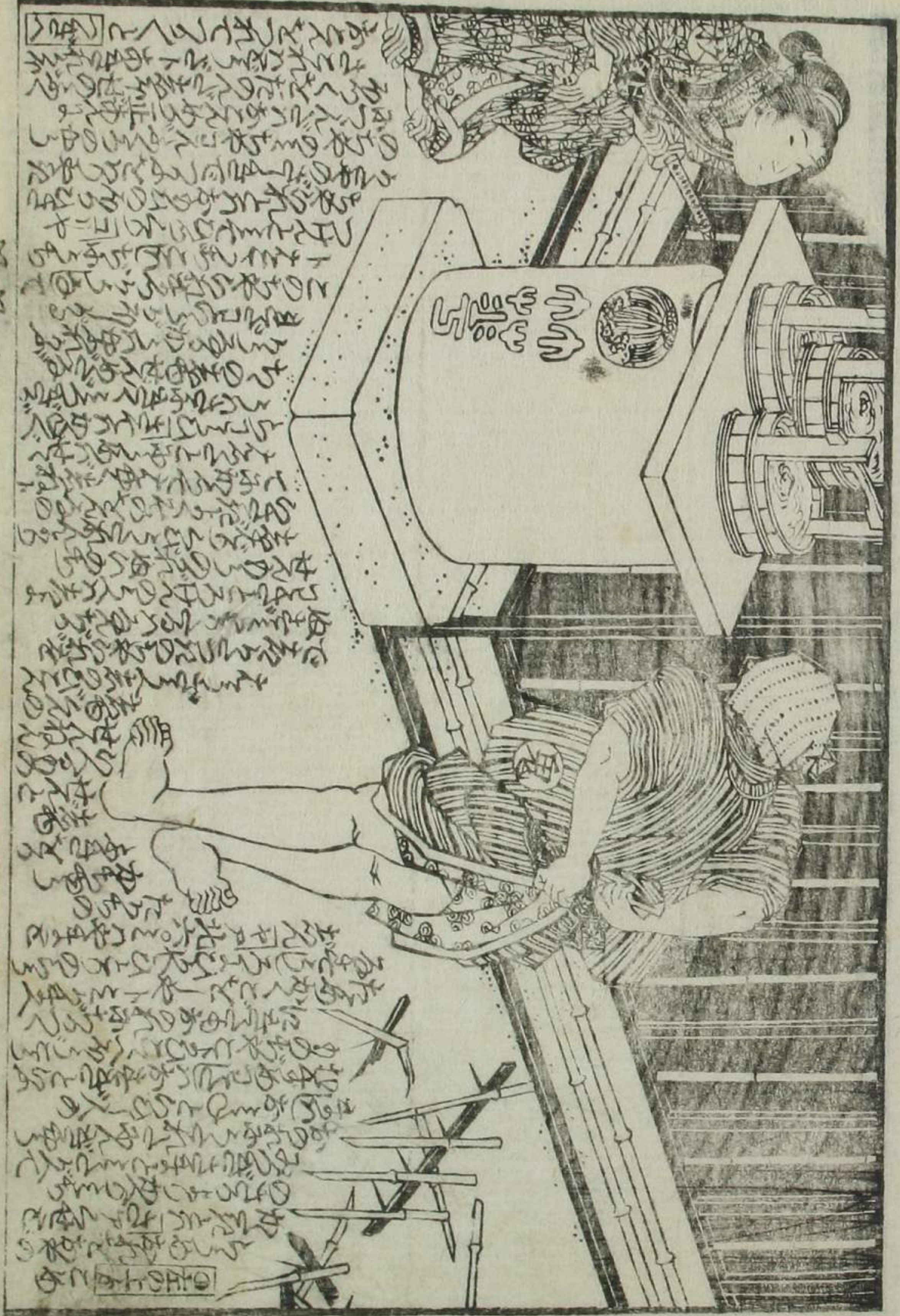


神都の地を御傍に御紀の  
 事なきは、うづつに御傍に御紀の  
 ことなきは、富貴御傍に御紀の  
 おもふ山を、うづつに御傍に御紀の  
 御傍に御紀の、うづつに御傍に御紀の  
 けしきを、うづつに御傍に御紀の  
 まさしく、うづつに御傍に御紀の













江戸

一四

五

六



江戸

一五

七

八













江戸

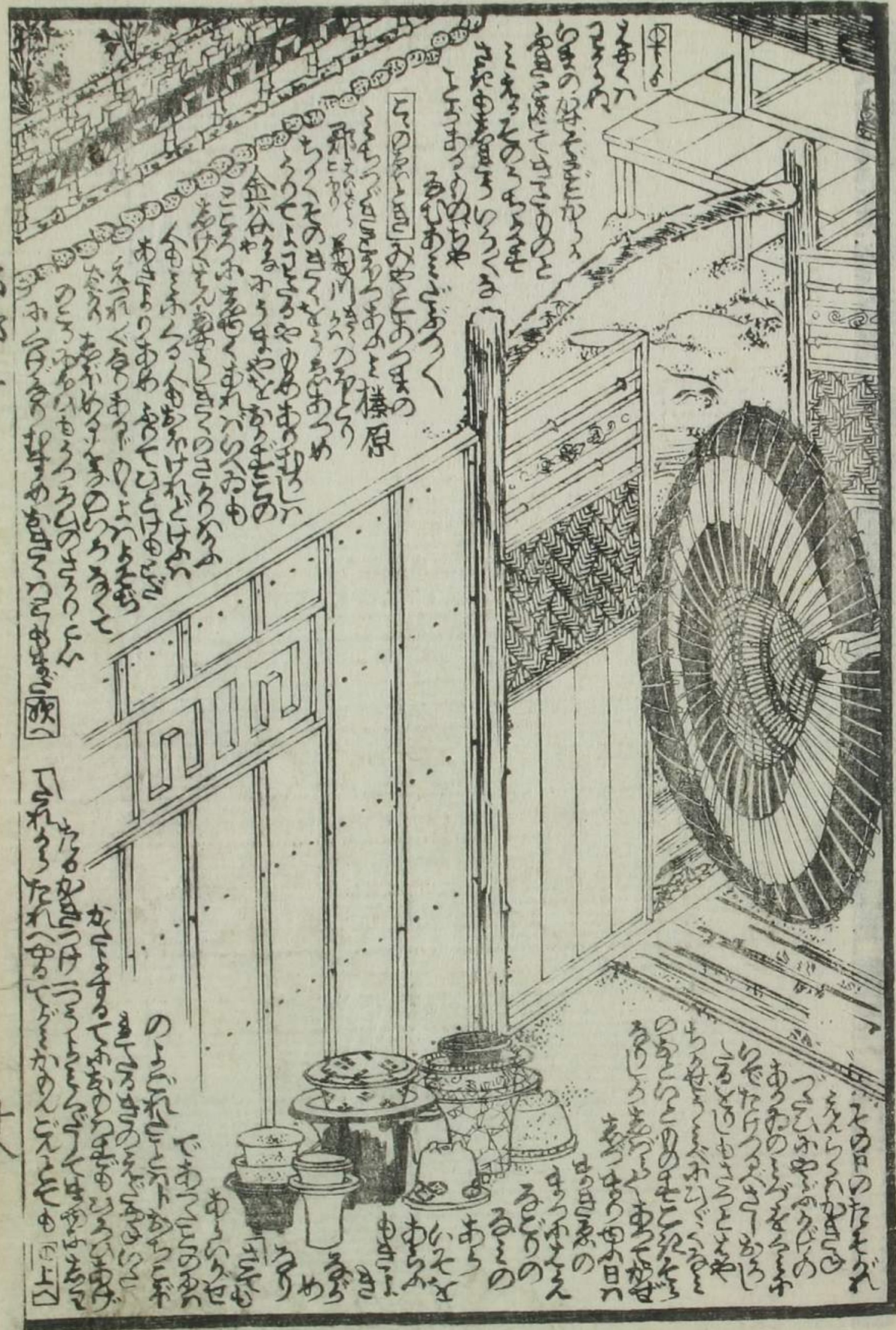
十一



江戸

十一





甘  
世  
十











榮久堂藏新版新舊種史目錄

書肆

江戸より町おやりの橋角  
山本平吉梓

江戸勸進大角力  
相撲起顯  
八輯  
九輯

此は初編ハ相撲の古方とあり安永より寛政までの  
番附とのせり二編より三編は寛政のころ和元年  
よりこのころの大角力番附并時天十日勝負付と云々  
の事あり一冊に三冊ありすは八九輯も當時  
の事あり未だ一冊あり

永花百人一首不抄  
結抄入  
全

菊香百人一首不抄  
結抄入  
全

浄家  
西流  
子供案文  
手紙  
宛文入  
全

繪入  
講釈  
實語教雅繪解  
全

御詔漆逢山鹿子  
六編揃

おんあつひをわこやまのこ  
けさじハ故人種彦の他ホ一とかのぬれつを  
の不破右左衛門とたてのて倒乃新案  
丹波あつれ 蘇るにほりーさじ多

源氏六十四帖  
極彩色  
小錦画

大志源氏物語と云々  
たむし物あり  
但め十四枚揃  
たむし入

豊國画



此は初編ハ相撲の古方とあり安永より寛政までの  
番附とのせり二編より三編は寛政のころ和元年  
よりこのころの大角力番附并時天十日勝負付と云々  
の事あり一冊に三冊ありすは八九輯も當時  
の事あり未だ一冊あり

浄書谷金川



種彦諸國

物語

遠江の巻上



嘉永成春  
上梓



十一



古編



庚戌新刻

# 諸國物語

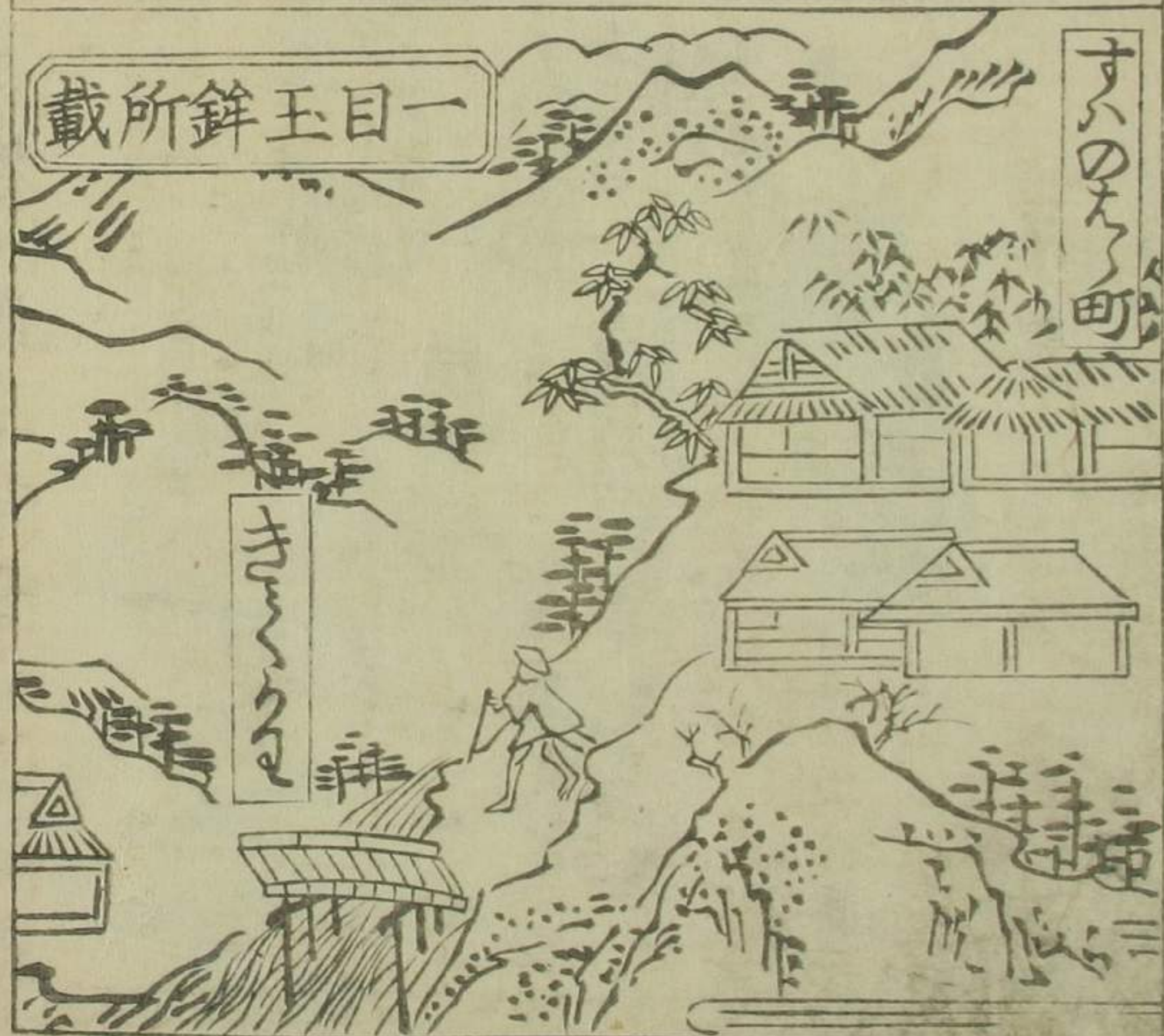
第十一編上

笠亭仙果作

一陽齋豊國画

榮久堂版

一目玉鉞所載



## 邯鄲諸國物語第十一編序

此遠江卷の原本其積諸國物語第二卷より其ハ甲斐國身延の事と夫  
 水鈔の寄注小風土記と引て甲斐國鶴郡小菊花有山の流水菊花と洗ふ其水  
 と飲人の壽の鶴の如くと記くか之甲斐由縁われその事ゆかて上りたれと道  
 幸の奇術の傳授又長祿の合戦の顛末補作ハ縦文の拙くとも觀かあらん意  
 見や友ものこと吾師ハ思ふもわが武田の家的事蹟と一生涯を執れしかれ  
 其言理るれものいせんも地方を改つ承久の宗行卿元弘の俊基朝臣忠臣非業の死  
 亡あり千歳の秋の名を流は菊河の復義ハ仗武吉の遭刀害物語のあつた事  
 うて金英さる異名と幸との薬師の利生とて垂草の奇特ハ延方事會  
 慈童が七百歳の枕と推く空言八百あるも小菊の懐中紙九丁かたわらぬの

庚戌初春新刊

故柳亭門人

笠亭仙果







伊勢  
渡會郡松  
下邑醫師  
豊橋宋民  
女采兒



遠江  
豊田  
郡  
光  
明  
山  
賊  
主  
遍  
照  
磨





















Handwritten text in Japanese characters, arranged in vertical columns around the illustration. The text includes various characters and symbols, such as circles and squares, interspersed with the main text.



Handwritten text in Japanese characters, arranged in vertical columns around the illustration. The text includes various characters and symbols, such as circles and squares, interspersed with the main text.















榮久堂藏新版舊神史目錄

江戸勸進大角力  
相撲起顯  
八輯  
九輯

江戸初編、相撲の古方と云々、安永、享和、寛政、天明の  
藩内、その外、二編より、江戸、相撲、おまじり、の、享和、元年  
より、この、大角力、藩内、并、時、天子、日、勝負、付、と、云々、の、  
一、く、あ、り、の、事、は、す、で、に、は、八、九、輯、を、高、時、は  
ゆ、く、ま、り、の、事、は、す、で、に、は、八、九、輯、を、高、時、は

永元百人首文十抄  
全

菊壽百人首文十抄  
全

伊家  
正流  
子供案文  
全

繪入  
講釈  
實語教推繪解  
全

御詔染逢山鹿子六編揃  
全

源氏六十四帖  
全

但め十四枚摺  
全

仙果編述  
豊國画

仙果編述、豊國画、江戸、相撲、おまじり、の、享和、元年、より、この、大角力、藩内、并、時、天子、日、勝負、付、と、云々、の、一、く、あ、り、の、事、は、す、で、に、は、八、九、輯、を、高、時、は、ゆ、く、ま、り、の、事、は、す、で、に、は、八、九、輯、を、高、時、は



浄書  
谷川  
金川



種彦詰園物語 巻中



豊園画  
仙果  
補綴







此の物語は、  
 諸國物語の  
 十一編に  
 属するもの  
 である。其  
 の内容は、  
 遠江の地  
 方、山本  
 氏に關し  
 ての事だ  
 る。

諸國物語  
 十一編

# 諸國物語 十一編

芳町河岸觀父橋南 山本氏藏持

仙果作  
 豊國画



遠江の地  
 方、山本  
 氏に關し  
 ての事だ  
 る。

遠江卷  
 下冊











































種彦  
諸國物語



遠江卷上  
後帳



十一































此の部屋は、  
 昔の風情を  
 今も残して  
 静かに暮ら  
 す人々の居  
 る所である  
 家具は、  
 古くから使  
 われてきた  
 もので、  
 どれもが、  
 大切に守ら  
 れてきた。

此の部屋は、  
 昔の風情を  
 今も残して  
 静かに暮ら  
 す人々の居  
 る所である  
 家具は、  
 古くから使  
 われてきた  
 もので、  
 どれもが、  
 大切に守ら  
 れてきた。



此の部屋は、  
 昔の風情を  
 今も残して  
 静かに暮ら  
 す人々の居  
 る所である  
 家具は、  
 古くから使  
 われてきた  
 もので、  
 どれもが、  
 大切に守ら  
 れてきた。



















程彦諾國物語

卷下  
下帳下

仙果作  
豊國画

嘉永  
四年  
実善  
上梓





福 三



邯鄲誌園

毛姑のつり

遠江のまき

後帳

仙果化

下

豊園画

山本上様

廣名橋のつり







廿四日

















廿二

十一























